経験の気づきを、理論で読み直す。

2021年7月16日、ABAオペレーションズ研究センターとの共同実験・検証の完了と理論編を発表。



当時の二回の学び

1 実践編

やってみて、気づく。

↓

2 理論編

検証と応用をする。

次の仕事へ

選べる関わりを増やす。

経験した一件を、次の関わりへ。

五つの問いを、自分の一場面へ。

当時の教材の問いです。誰とどの仕事で使うかを、経験した一件から考えます。

	当時扱った問い	次の関わりで見たいこと
1	言葉で繰り返すほかに、何を変えるか	時間・情報・見本・相談先の どこを整えるか。
2	取り組み始める条件は何か	本人は、何ができると見通しているか。
3	相手の経験に合う関わりは何か	まず助けるか、一緒に考えるか、 先を提案するか。
4	始める・続けるをどう捉えるか	行動の前・本人がしたこと・ その後を見る。
5	自分の日常でどう試すか	次の面談で、自分が変えることを一つ。

相談の前後を、ABCで見てみる。

説明用の例：回答条件が二つに分かれたとき、15時に資料を持って相談する。

A 行動の前

回答条件が2つある。
15時の確認時間と
持参する資料が
決まっている。

→

B 本人の行動

資料を示し、
迷っている判断を
上司に相談する。

→

C その後の結果

回答条件が揃う。
不足した情報と、
次の対応が分かる。

一件で起きた結果から、次の関わりを選び直す。

Gollwitzer & Brandstätter（1997）を読む →

学生の課題で、始める時・場所を決める計画と実行を検討。
次の面談で自分が何をするかを、場面に結びつける参考にします。

相手と仕事に合わせて、関わりを選ぶ。

当時は奉仕型から共働型、その先の提案型へと、関係を広げる説明をしました。



本人が担う判断と、上司が引き受ける支援を一つずつ。

1 奉仕型

相手の目の前の問題を解く。

2 共働型

問題と解決策を、一緒に考える。

3 提案型

その先に必要なことを、
構想して提案する。

次の面談へ、一つの問いを持っていく。

相談の前後を図解で眺め、いま気になる判断と、引き受ける支援を選びます。

相談の一件を、前後から見る

「相談して」と伝えたのに、
なぜ相談が来ないのか

納期回答をめぐる説明例から、
本人の確認、上司が担う調整、
状況を持ち寄る時点をたどる。

相談の前後を読む →

近い場面から、資料を選ぶ

対話・連携を見直す

相談、引継ぎ、話した後の
理解など、近い仕事の場面の
見出しを一つ選ぶ。

近い仕事の場面を選ぶ →

本人が迷っている判断を、一つ選ぶ。

本人に任せることと、自分が用意する時間・情報・支援を考えます。

日常の関わり・研修での活用を相談する →